

令和5年度 第1回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和6年3月15日（金）午後2時00分～午後4時00分

場 所 長野市立博物館 2階 会議室

出席委員 相澤委員・浅倉副会長・大串委員・小林委員・宮下会長

1 開会

2 委嘱書交付

3 あいさつ

4 委員紹介・職員自己紹介

5 正副会長互選

相澤委員が宮下委員を会長に推薦し、承認される。

宮下会長が浅倉委員を副会長に指名。

6 協議事項（議長 宮下会長）

（1）協議事項

（ア）令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画（陶山係長）

（浅倉副会長）「博物館の使命・収集方針等の見直しとある。詳しく説明してほしい。収集方針などはホームページに公開されていない。」

（陶山係長）「その通りである。一度館内で使命・収集方針を定めたが、まだ公開できていないため、改めて見直す。詳しくは、資料管理についてのところで、この後説明するが、収集のことだけではなく、管理に関する方針全ても今回考え直す必要があると思っている。」

（浅倉副会長）「（博物館の再編のことについて）補足してほしい。」

（陶山係長）「（博物館の施設には、）大きく分けて2つあり、人がおらずに資料だけがある付属施設と、人がいて資料を管理している分館と本館がある。これらをどう再編していくかということだ。」

（浅倉副会長）「現在とは変えていく、現状をもう一度考え直すということか。」

（陶山係長）「公共施設マネジメントという大きい方向性はある。詳しくは後で説明をする。」

（大串委員）「本館の特別展・企画展は興味深い。仏教美術の悉皆調査は大切だと思う。私は近現代が専門なので、その観点からになるが、かつて、長野市は仏都といわれたように、仏教にかかわる町づくりをしてきた。近代までおりてきて大勧進

の住職がどうしたかといった視点が入ると面白い。長野市で言えば、篠ノ井に原水爆禁止運動をした住職がいたりしたため、広い意味での平和への祈りを示すことができる。近代ということだと、『青い目の人形』は『戦後 80 年を目前として』平和が崩れてきているというようなメッセージが込められる。重要な企画である。私も手伝えればと思う。先の浅倉副会長の指摘、理念や組織再編の問題にもかかわるが、戸隠や信州新町（の分館）を改めてみると、かつてはそれぞれの地域で役割を果たしてきた。それぞれの個性を生かしながら相互に補い、連携できないか。天体や歴史のことで分館と連携できないか。串刺しにするような企画をして、もう少し連携できないかと思う。単に情報共有ではなく、市の館として連携する。個性を生かして連携できればよいと思う。」

（宮下会長）「大勸進の企画展は楽しみだ。桂昌院の資料がある。明治になって大本願の上人職を廃止する流れがあったが、その際に大勸進がどう動いたか。明治天皇の行在所があったりと、転換期である。」

（相澤委員）「入館者数の表、前年度比がわかる資料が今年はないため、ほしい。プラネタリウムは県内に数がないので、アンケートでもプラネタリウムを理由に来館があることがわかる。太陽観測会来年度の計画にないが、ないのか。三沢勝衛の定点観測は世界的に評価されるものとあるが、今まで評価されていなかった。PRし、子どもたちに伝わるようにしてほしい。」

（小林委員）「聞きなれない言葉が多く、ここでの議論に追いつけないが、研究をしていない一般の人でも分かりやすい表現をしてほしい。『青い目の人形』の展示などは子どもにも見せたい。歴史があって今の時代があるということを子どもにも身近に感じるような補足がほしい。余談だが、子どもころから化石に興味がある。化石は永遠にあるのか。」

（成田補佐）「化石は海の堆積物が地殻変動でできたもの。無限ではない。すぐに無くなることはないが。」

（宮下会長）「『青い目の人形』展では市内の人形全てが出るのか。」

（樋口主査）「昭和 2 年のオリジナルの人形は市内に 2 点あり、2 点とも予定している。新しい人形については、オリジナルがある学校やデニー・ギュリック氏との交流がある学校を中心に 4 ヶ所予定している。」

（宮下会長）「ぜひそれをやってもらいたい。（学校の人形を出陳すると）学校、子どもたちが来館する。」

（相澤委員）「私は子どもたちに地域のことを教えようと活動しているが、紀要とかは大人向けである。子どもが読めるものが少ない。子ども向けのコンテンツがほしい。1 つくらいは子どもがとっつきやすいように企画してほしい。」

（大串委員）「子ども向けにわかりやすくすることはとても賛成だが、モノそのものが持っている迫力は大切だと思う。説明しすぎてしまい、分かりやすく加工しすぎてしまうと、本物の力が失われるのは心配である。モノの手触りなど本物の質感

は、感じる子は感じるので、モノがそこにある感動は忘れてほしくない。今はデジタルに触れる機会が多いが、モノがそこにあるということが大切だ。後の話につながるが、博物館として何を残すか、モノが持つ迫力のようなことを考えてほしい。」

(宮下会長)「実物資料との出会い、いわば第一次情報が博物館では大切で、原点である。それを中心においてほしい。」

(相澤委員)「それに関連して、『青い目の人形』は、現物があるためにエピソードがある。記録ではなく記憶があるのだと思う。実物との出会いがあって感じるものがあり、ストーリーができていないのではないか。記録と記憶の違いということかもしれないが、そういった点を表現し、市民にもかみ砕いて伝えてほしい。資料の説明文から、博物館の皆さんの使命感は感じている。」

(宮下会長)「意見がたくさん出るのはありがたい。」

(イ) 博物館資料の管理について (中野館長・陶山係長)

(宮下会長)「大変な管理状態ということがわかる。質問・意見はあるか。」

(浅倉副会長)「まず、『体系的なコレクション形成』とあるが、これからやるのか。2点目に、『活用されていない資料』とあるが、詳しく説明してほしい。また、整理をし直して、スペースの確保は難しいのか。廃校の利用などはないのか。」

(陶山係長)「1点目は、『体系的なコレクション形成』について、でよいか。」

(浅倉副会長)「そうである。具体的に何か項目などがあるのか。」

(陶山係長)「これまでも、項目はあった。小正月、漁撈といったまとまりがあったものを、もう一度整理してコレクション形成をしてきた。やってきた中で、濃淡が出てきているので、収集方針を含めたコレクションの拡充を考え直す。」

(浅倉副会長)「活用されていない資料はあるのか。」

(陶山係長)「これは、付属施設の問題だけでなく、一旦収蔵されたがあまり使われていないものがある。」

(浅倉副会長)「どんなものが使われていないか。具体的に挙げられるとイメージがしやすい。」

(陶山係長)「分野にもよるが、民具は多い。全てを展示できているわけではない。」

(浅倉副会長)「研究には必要ということはある。」

(陶山係長)「(展示されていないが研究には必要ということは) そうである。議論が必要である。地域との関係性が薄いものもあり、その点も議論が必要である。3点目のスペースの確保については、試みているが難しい点もある。」

(浅倉副会長)「収蔵の仕方を見直すことは考えていないか。」

(陶山係長)「考えているが、難しい実情もある。(資料を) 詰めればスペースが空く、というレベルではなくなっている部分もある。また、あまりに詰め込みすぎると収蔵環境が悪くなり、カビや破損の危険がある。適切な管理が必要。おっし

やる通り、廃校利用も考えていきたい。」

(浅倉副会長)「長野県立歴史館でも、収蔵スペースは問題として挙げた。検討していただきたい。」

(陶山係長)「考えたい。」

(大串委員)「機構が変わって難しくなるところもあるが、博物館の自助努力だけではどうにもならない部分もある。教育委員会、長野市全体で問題にしていくべきである。全国で問題になっていることだ。理念の見直しとかかわる。博物館は誰のためにあるのか、何のためにあるのかが揺らぐと危ない。先を見る必要がある。今の観点ではわからないことがあるということが見落とされがちであり、これがあれば人が来る、といった視点だけになる。博物館にあるモノは、博物館のモノというだけでなく、市民のモノである。スペースがないというだけでどうにかしていいわけではない。そのために専門家会議があるのだろうが、専門家だけでなく、市民の意見を聞くのが大切である。理念のところで、博物館は誰の、何のためにあるのかという部分がなくなると、状況でズルズルと行ってしまう。体系的なコレクション形成は難しいが、見識が問われる。長野市はこういう市か、判断できる見識が求められる。長野市の個性を考えられればよい。」

(宮下会長)「現物を将来にどう残すか。長野市は合併して大きくなった。(旧市町村の)資料館は地域性が表現されているため、大切にしていくものだ。村や町で、ここに入れば永久に残るとして作った資料館である。廃止した場合には資料はどこに行くのか。大事な、寄贈した人の思いを、記憶をとどめていくのは博物館の使命である。」

(藤澤教育次長)「(長野市の所管施設は)どこの施設もあつぷあつぷし、困っている。資料の保管は環境のよいところである必要があるが、廃校は空調がないなど、課題がある。無尽蔵に金と人があればいいが、人口減少で税収が減る状況にある。同じようなモノもあるが、地域に根差したモノがあるので、専門家と相談して考えていかなければと思う。長野市は、他の同規模自治体と比べ、施設が多い。よい施設がある。長野市全体で施設が多い。信更中学校が今日閉校したが、地域では、地域活性化になるような利用が望まれている。ただモノが置いてあるだけではなく、プラスアルファが必要である。中山間地域ではない場所としては、長野市で初めて清野小学校が閉校になる。地元の意見として地域活性化があることをふまえ、検討していきたい。」

(大串委員)「現状はよく理解しているつもりである。現実とはとても分かっているが、現実には引きずられずに、理念と理想を大切にしてほしい。ネットワークを大切に、信更小学校をミニ博物館にするなど、もう少し小さいレベルで活用することも考えてはどうか。資料を少し置くなど、工夫はできる。理念をしっかりとするのが大切である。」

- (小林委員)「東京でもニュースになっている。情報収集はしていると思うが、情報収集をしながら、長野市にあったやり方を考えてもらえればと思う。小さいレベルで活用する、展示をするというのもよいが、先生の話は面白いので、子どもに直接話すなどしてほしい。」
- (相澤委員)「大変なことだと思う。中山間地域に担い手がいない状況がある。農政だけでなく、子どものことなども含めて活用できる補助金がある。大岡などで事業をしている。そうした方面の力を使うことも考えて、交付金の活用も検討してはどうか。今回の協議会には教育次長もいるので、考えてほしい。教育委員会や、子ども未来部の事業みらいハッケンプロジェクトなどと協力することも考えてはどうか。」
- (宮下会長)「大変な作業である。地域の人の意見を吸い上げ、大切にしていって、それでできた資料館なので、大切にしていってほしい。」
- (大串委員)「相澤委員の意見はそのとおりであり、コミュニティづくりと連動していくことだと思うので、連携してほしい。また、世界に誇れる長野市、アジアの中の長野市という視点を入れると変わってくる。市の文化財だが、世界の目線を入れるのも必要である。」
- (宮下会長)「三澤勝衛は長野市の出身である。長野市から世界、太陽まで行った。そういった視点が大切だと思う。」

(2) 報告事項

(ア) 長野市機構改革について (小山補佐)

- (浅倉副会長)「(機構改革の結果) 予算が増えることはあるのか。」
- (藤澤教育次長)「(予算額は) 変わらない。活用できるモノは長野市にたくさんある。それが顕在化していけば、文化財の価値がわかる。稼ぐ、ということではないが、よいスパイラルができればと考える。」
- (浅倉副会長)「観光に舵をきっている。」
- (宮下会長)「全国的な動きであり、(長野) 県も同様の動きとなっている。インバウンドが盛んで、外国人の日本の文化に対する見方が変わってきている。」
- (大串委員)「京都の西陣織と清水焼が壊滅的な状況になっている。ホテルに変わってきているためであり、オーバーツーリズムである。これらは研究されていないが、型紙などが廃棄されている。研究が進んでいないと、よくわからないまま観光の名の元に破壊されることになる。ブレーキを考える必要がある。保存のために活用するということが、本末転倒になると危ない。ブレーキを考えなければならない。機構改革で教育委員会から離れるが、教育委員会も文化財行政に目を光らせてほしい。チェック機能を持っていってほしい。」
- (宮下会長)「長野市のインバウンドの関係で言えば、戸隠は重伝建(重要伝統的建造物群

保存地区)の指定があるため、ホテルがない。外国人は宿坊に泊まっている。
文化財保護の視点が必要である。」

(大串委員)「南木曾の宿場もそうである。」

(藤澤教育次長)「戸隠では、今年、重伝建の全国大会を行う。そこでも宿坊の宿泊希望がある。」

(宮下会長)「戸隠の宿坊は庭を大切にしてい、庭に高山植物が生えている。他にあまりない。大切にしてほしい。」

(イ) 長野市立博物館入館料について (小山補佐)

(相澤委員)「(入館料の値上げは) 全ての特別展・企画展が対象か。」

(小山補佐)「今年は全てを予定している。」

(浅倉副会長)「上越は 500 円である。」

(宮下会長)「松本は企画展だと 1,000 円であり、長野市はそれと比べると安い。」

(相澤委員)「実際には特別展示は費用がかかるので、(入館料が) 高くても仕方がないが、一般からすると、特別展示があると行こうと思うので、その時に安くなるというと思うこともある。」

(宮下会長)「民間の館と比べると安い。図録も作っているの、安い方である。図録をしっかりと作るのは大切。」

(浅倉副会長)「図録を作っていただくのはよい。」

(相澤委員)「資金繰りが大変だと思うが、考えてほしい。」

(大串委員)「特別な期間だけということは、常設展と企画展あわせて 500 円ということか。」

(小山補佐)「そうである。」

(大串委員)「特別展は 200 円と思えば安い。一方で、小学生は無料としているところもあるので、考えてもよいのではないか。」

(小山補佐)「現在、小学校の社会見学などで来館する場合、多くは無料となっている。」

(大串委員)「個人も考えてもよいのではないか。」

(小山補佐)「市内の小学生は無料というところもある。条例で定めがあり、すぐには難しいが、今後検討する上では、メリハリをつけることも検討が必要と思う。」

(大串委員)「博物館の理念をどうするかということが今日の(協議会で)テーマになっているので、それと関係して言うと、中学生や高校生は調べるために博物館に来るが、小学生は感じる。体感してもらう。それを大切にしてほしい。料金だけの話ではなく、理念をクロスさせて考えてもらえるとよい。」

(宮下会長)「減免措置があるということで、子どもがはじめてモノに出会うということが大切である。その子がいつか学芸員になることもあるかもしれない。考えてほしい。」

(ウ) 市民アンケートについて (成田補佐)

(宮下会長)「丁寧なアンケート結果だと思う。」

(浅倉副会長)「喫茶店はほしい。」

(宮下会長)「展示を見ると疲れるのであるといいが、近年閉鎖していたりする。」

(相澤委員)「その他のことで、話したい。地元でも高齢者がなくなると記憶がなくなるので、記憶を書き残してもらう活動をしている。本物を見たときにどう感じたかを残したい。『信州人のひとつ残し—いつか文化遺産になる話—』、という本をまとめた。これは、時系列ではない。これまで話されたことを記録化してみたもので、こういうことが大切かな、と思った。アドバイスがほしい。また、古戦場を核とした取り組みをしている。三太刀祭りでは、武田・上杉軍にわかれての剣道の試合などを行っている。そういったことを入り口にして興味を持ってくれるといいと思う。博物館では、今年川中島の戦いのクリアファイルを作った。これを活用したい。地元としては、ここ（博物館と川中島古戦場）をベースとした活動をしていきたいので、協力をお願いしたい。」

(浅倉副会長)「昨年、こちら（上越教育大学）の留学生がお世話になった。お礼を言う。」

(大串委員)「理念をつくり、誰の何のための博物館か、という見識が必要である。前提となる考えが大切である。公民館報に村民が選ぶ10大ニュースがあったが、合併して分からなくなることがある。こうした資料を経年で見ると、コミュニティレベルでの年表ができる。地域の方から10大ニュースをあげてもらい、続けると、日常的に歴史を記録していける。そうした試みを行ってほしい。」

(藤澤教育次長)「市報で以前は行っていたが、最近は見ない。公民館報は公文書館で保管しているはずである。活用できればと思う。」

(大串委員)「コンビニがつぶれた、といった些細なことでよい。試してみてほしい。」

(宮下会長)「地域史では、館報は一級資料である。試みてよい。」

(3) その他

(宮下会長)「活発な意見が出せてよかったと思う。」

7 閉会